

農業用水の節水 にご協力ください。

農業用水の状況

6月以降、記録的な少雨が続き、県内の農業用水源であるダム貯水率は例年を下回る水準で推移しています。今後の天候により、十分な農業用水が確保できなくなる可能性があるため、農業用水の節水をお願いしております。

節水に効果的な取り組み

以下の取り組みでは無駄な水の流出を防ぎ、限られた用水で実施することができます。

※裏面で飽水管理の取り組みについて紹介しています。

【用水の掛け流しの防止】



【飽水管理の実践】



ご相談窓口

農業用水に関するご相談

宮城県東部地方振興事務所 農業農村整備部

電話：0225-96-8663

栽培管理に関するご相談

宮城県石巻農業改良普及センター

電話：0225-95-7612

～出穂後 30 日頃までは飽水管理で、品質維持と節水を～

石巻地方農作物異常気象対策連絡会議

○6月、7月は高温で経過し、降水量が少ない状態で推移しており、管内でも農業用水の供給に不足が生じています。

○管内の出穂期は、平年より2日早い7月30日となりました。出穂期前後は、もっとも稲体が水を必要とする時期になります。貴重な水を有効に使うとともに、品質向上に努めましょう。

《今後の管理のポイント》

◆出穂後30日頃までは、限られた用水で「^{ほうすいかんり}飽水管理」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。「^{ほうすいかんり}飽水管理」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。

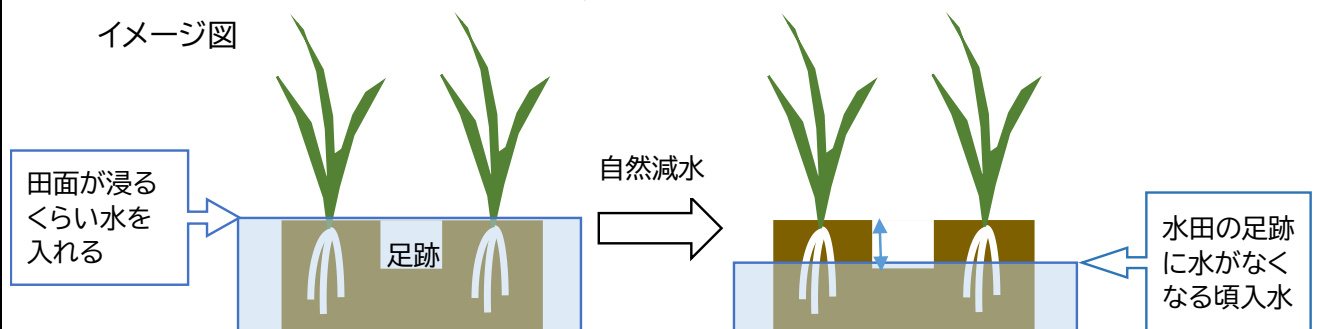
～^{ほうすいかんり}飽水管理について～

- ◆限られた水で実施できるため、用水不足が懸念されるときの水管理として有効です。
- ◆間断かんがいにより土壌が酸化的に保たれ、根の活性が高まる管理法です。
- ◆湛水管理に比べると夜間の稲体の温度が下がりやすいため、乳白粒や胴割粒の発生が軽減できます。
- ◆落水は出穂後30日以降とし、登熟歩合向上を図りましょう。

◎ 水尻を閉め、田面が浸るくらい水を入れたままとし、水田の足跡に水がなくなった頃のタイミングで再び入水する。

◎ ほ場が湿っている状態を保つ。

イメージ図



表面写真2

【限りある用水を有効に活用できるように地域で協力し、工夫しましょう】